

11月4日に閉幕した『東京モーターショー2019』。今年は大好評だったとのことでしたが、実際はどうだったのでしょうか。

今年で第46回目の開催ということですが、10月24日から12日間の開催で来場者数延べ130万人超えとなり、1991年の200万人超えをピークに前は77万人まで落ち込んだようですが、今年は大きく上回ったようですね。

さて、その要因は一体何だったのでしょうか。今年のテーマは『OPEN FUTURE』未来の可能性が広がる場をめざす！でした。今までのようなThe自動車・自動車！ではなく、遊べるブースも多くあり家族やカップルなども遊んで楽しめるような展示会となっていました。ただ個人的には、仕事含みで行っているの新しい車や未来の自動車社会関連ブースに行けば良かった。しかしながら日本を支える企業の集まりで構成されたモーターショーには、各社伝えたいコンセプト、近未来に向けた新たなニュースを知る情報源が沢山あります。『走る・曲がる・止まる』クルマの三大要素をより新しく、より安全に、更なる技術革新を。確実に新しい時代になってきています。ドキドキしてます。掴み取らなければと思わせるモーターショーでした。

東日本物流センター 東日本営業本部(センター長:木下 敦裕)

皆様いかがお過ごしでしょうか。今回は名古屋市守山区にある、しだみ(志段味)古墳群を紹介いたします。

テレビで古墳の特集を放送していて、そういえば名古屋市内にも古墳があったはず、と思い立ち行ってきました。

名古屋市北東部の守山区の志段味地区にある古墳群で国の史跡にも指定されています。最近になってしだみ古墳群ミュージアムも隣接してオープンしました。

ミュージアムの周りを中心に、4世紀前半から7世紀末にかけて造られた約70基の大小の古墳が点在しています。特に志段味大塚古墳は長さが約51mあり、大きくて迫力がありますが、古墳跡を造られた当時の姿・大きさに復元整備してあるものです。他にほぼそのままの状態で見られる古墳もいくつかあるようです。

ミュージアム内はこの古墳群の成り立ちの紹介などとともに、調査で発掘された埴輪などが保管してある収蔵庫を窓越しに見られるようになっていました。

4世紀~7世紀という想像のつかない時代の古墳の話ですが、皆様方も見学に行かれてはいかがでしょうか。

名古屋営業所(所長:高橋 鉄夫)

KOYORAD

世界の拠点から
-From the base in the world-



秋本番から初冬へと季節が変わる前に紅葉を見ようと、札幌市清田区の平岡樹芸センターへ出かけました。あまりメジャーではないのですが、モミジの並木通りがあると聞きましたので一度見てみようと思い、駐車場に着くと予想外に混んでいました。車を止めるのに30分程待ってからいざ入園となりました。入園は無料で、入口の園内地図で確認し早々にモミジ並木通りへ向かいました。到着すると想像以上に真っ赤に染まったモミジのトンネルに迎えられ、その中を歩いて行くと、晩秋を味わいながらゆったり気分が最高でしたよ。

そのまま通り抜け案内に沿って進むと、次は日本庭園スペースへとたどり着きました。こちらも見事で海外からの観光客も結構来園されており、皆さん写真を撮られていました。

市内でこんなに見事な紅葉を見られるのは、さすが北海道だとすばらしさを再認識しました。



札幌営業所(所長:利川 光浩)

毎年この時期、奈良では正倉院の宝物を公開する正倉院展があります。今年で71回目と、もはや秋の恒例行事となっております。

奈良時代に聖武天皇のご冥福を祈念し、光明皇后が天皇家ゆかりの宝物を東大寺に奉獻されました。その品々は東大寺の正倉院に納められ、ほかの仏具や家具、器物などと一緒に保管されています。

今年令和元年、天皇陛下の御即位記念としまして、初出展4品を含む計41品が展示されています。71回目にも関わらずまだ初お目見えがあるとは驚きです。御即位記念で聖武天皇ゆかりの品が多いと聞いていたので、わくわくしながら長蛇の列に並びました。

『赤漆文観木御厨子』現代風に言うとな筆筒のようですが、寸法もピシッと決まっています。奈良時代の物とは思えません。それ以外にも青い宝石ラピスラズリで装飾された革帯や、その革帯を収納する化粧箱など。1200年以上前からの歴史遺産であると思うと機械も無いのに製作技術や保存状態高め素晴らしいの一言です。中にはバラバラになった飾り物もありましたが、ひとつひとつ丁寧に展示され大切に保存されているのがわかります。

出展リストには前回の出展年が記されていますが、初出展以外の品も大半は10年以上前で、中には20年以上前にしか出展していない物もありました。

中々見られない宝物を拝見できてよかったです。

大阪営業所(所長:藤谷 弘行)

繁忙期の夏も過ぎ、朝夕とめっきり冷え込む季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。くれぐれもお体をお大事にされてください。

さて、先日ですが家内の用事で天神に着いていくことがあり、せっかくなので「美味しいランチでも」と以前より気になっていたお店に行ってきました。お店の名前は『真(まこと)』。ランチメニューは鯖の塩焼き定食のみと、かなり強気なお店です。当日は土曜日ということもあって行列を予想していましたが、お昼過ぎということもあり意外にすんなりとお店の中へ案内されました。まずびっくりしたのが、席に着いてすぐに冷奴と漬物が出てきたことです。メニューが一つしかないので注文を聞かれることがないんです。改めて考えて「それもそうか!」と思ったことはさておき、あっという間に鯖の塩焼き定食がテーブルに並べられます。注文するものが決まっているから、おそらく入店と同時に焼き始めているんでしょうね。あまりの速さにびっくりでした。

実際に並べられた鯖を見ると、あまりの大きさにこれまたびっくり。口に入れると脂もしっかり乗っていても美味しく、ご飯との相性もバッチリです。またおかわりも自由なため、メタボな私にはぴったりのお店でした。鯖の塩焼き定食900円と少し高めなランチではありましたが、この鯖を食べれば十二分に満足できると思います。お近くにお寄りの際には、是非行かれてみてください。おススメです!

福岡営業所・沖縄配送センター(所長:江頭 慎司)

大統領選挙が終わり、ジョコ候補とプラボウォ候補の対決が終わりました。10月20日に正式にジョコ氏が勝ち、インドネシア大統領として任命されましたが、今回の大統領選挙は歴史上一番熱い選挙と言われました。評論家によると原因の一つとして言われているのは、宗教、特にイスラム教の信者たちの感情(Emotional)がプラボウォ氏側に引っ張られたということです。支持する大統領候補の違いによって家族関係、友達関係などが決裂することも多かったです。特にSNSのWhatsapp, Line, Facebook, Twitterなどで選挙の話をして、意見の違いで話が熱くなってしまうことがほとんどのケースでした。10月20日にジョコウイ候補が勝って正式的に任命されても、支持者の『喧嘩』はおさまらず続いています。

ジョコウイ候補は大統領に任命された後、自身のアシスタントとして何らかの大臣を任命しなければなりません。考え難いことにプラボウォ氏は防衛大臣として任命され、両者の支持者は大変驚き信じがたい気持ちになっています。

「まあ、政治はあんなもんですよ」「いやこれがプラボウォ氏の一つの作戦」「ジョコ氏は間違っただけでプラボウォを任命したんだ…」いろいろな意見があって、今回の件についてはテレビ番組の評論家たちも未だにまちまちの見解です。プラボウォ氏がジョコ氏側に立つことになると野党として誰が役目を果たすのか複雑な気分です。政治家たちもこれから今までに例のない動きをしていくと思われまます。

KJI(インドネシア)(工場長: S.Akhyar)

～正月休みも返上で～

シャンダンジエ。中国語ではクリスマスをごこのように呼びます。漢字で書くと『聖誕節』。なるほど意味は十分わかりますね。サンタクロースは『聖誕老人』、クリスマスツリーは『聖誕樹』という具合です。

2019年も残すところわずか。クリスマスシーズン到来ですが、中国でも日本と同様、もともとクリスマスを祝う習慣はなく、この20年くらいで定着してきたようです。

上海など大都市ではホテルやショッピングモールは見事なイルミネーションで彩られ、若者や子供たちにとっても楽しいイベントです。昨今ではハロウィン(万聖節)を楽しむ習慣も広がりつつあり、食やファッション、エンターテインメントでの欧米文化の広がりを感ずみます。とはいえ1月～2月の春節が中国の人々にとってはもっとも楽しい休暇であり、それに比べるとクリスマスの存在は欧米ほど重要なものでなく、商業化されたイベント色の強いものだと言えましよう。

クリスマスの後に大晦日、お正月を控える日本とは異なり、街中のクリスマス飾りやサンタクロースの人形は12月25日が過ぎ、1月1日を迎えても正月休み返上で立ち続けているところが少なくありません。

中国でのクリスマスシーズンのちょっと面白風景です。

KHE(中国・蘇州)(総経理: 山本 博史)

日本ではいくつもの大型台風や豪雨などの影響で、特に東日本を中心に被害が大きいとこちらアメリカでも報道されていました。被害に遭われた地域の方々に心よりお見舞い申し上げます。

アメリカでも南部を中心にハリケーンの影響が毎年起こります。昨年度もハリケーン『マイケル』の影響が記憶に残っていますが、『マイケル』はアメリカ本土を襲ったハリケーンの中では過去3番目に強力だったそうで、かなりの被害が出ました。因みに日本の台風は何号と番号で呼ばれますがハリケーンの場合必ず名前がつけまます。

今年もハリケーン『マイケル』をさらに上回る超大型の『ドリアン』が発生しました。日本でニュースを観られた方も多いと思いますが、バハマ諸島北部に上陸し、アメリカ本土にも被害をもたらしました。最終的な被害はまだわかりませんが、当時は行方不明者が2,500人以上出てバハマ諸島にある住宅の60%以上が倒壊したなどと壊滅的な被害をもたらしました。

これらは地球温暖化の影響なのでしょうが?日本でもそうですが、被害の

規模は年々大きくなっている様に感じまます。今後は対策と危機管理を徹底させる必要性を強く感じまます。アメリカと日本の災害時の大きな違いは、アメリカでは避難情報が出ると学校、公共機関などが全て停止します。日本の様に日頃からの訓練等がないため、強制的に停止するようです。日本では避難指示が出た後、実際に避難される方々は10%にも満たないらしいですが、アメリカでは避難勧告が出ると軍隊が出動し強制的に避難させられます。文化や習慣によっても違うのですが、常に危機感を持ち、素早く行動する事が重要ですね。

一方ここカリフォルニアでは本日の朝、山火事によって地域住民18万人に強制避難命令が出されました。今年の4月以降半年以上雨が降っておらず、この時期に発生する強風により大規模な山火事が発生しています。こちらでも毎年起こる災害ではありますが、具体的な対策はまだ難しいとの事です。

KCS(アメリカ)(COO: 板垣 仁志)

～ディーパバリの日がやってきた～

ディーパバリ(ディーワリー)は、10月から11月にかけて行われる光の祭典ですが、日付は毎年決まっています。(カレンダーには登録されていますが、政府によって変更される可能性があります)この日は、闇に対する光、または悪に対する勝利を祝います。

ディーパバリは、ヒンドゥー教を信仰するインド人のほとんどによって祝われています。シンガポールではリトル・インドアに行ってお祝いを見ることができます。このエリアは中国のチャイナタウンと同様に、インドの人々にとって大きな魅力となっています。

『リトル・インドア』という名前はとてもわかりやすく、この地域で売られている多くのインド製品をすぐに見つけることができます。その為多くのインド人がここで食事や買い物をしたり、週末をリラックスしたり楽しんだりしています。だからこそ、ディーパバリのメインイベントはいつもリトル・インドアで開催されています。

ディーパバリの1か月前には、主要道路でのイルミネーション、フードバザー、ダンスパレードやコンボイ、そしてメインプログラムのコンサートまで、色々なイベントがリトル・インドアで始まります。

様々な宗教や人種による祭典を見ると、どれも全く異なった文化でとても楽しいです。このようなイベントで多くの新しいものを見て、そこからたくさんの事を学ぶことができました。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

～ヨーロッパにおける窒素危機～

ヨーロッパやオランダのニュースとしてご存じかもしれませんが、窒素政策が間違っていると話題になっています。

問題は、特定の土地に大量のアンモニアと窒素酸化物が存在することです。窒素は栄養素ですが、多すぎると悪影響を及ぼします。

自然や保護区がより健康でいられるよう配慮するため、ヨーロッパの多くの国がこれらの地域を保護区域に指定しています。また、オランダ政府はこの問題について欧州委員会に約160の地域を通知しています。例えばオランダでは、ワッデン海諸島、アイセル湖、フェルウェ国立公園(有名な自然地帯)の砂丘がそれに該当します。これらの地域では窒素が大量に蓄積されるため、表面の約75%が減少しています。

オランダの窒素の約40%は農業によって、6%は交通によって、6%は建設によって、1%未満が家庭によって生産されています。そして、海外からも多くの窒素が来ています。この数字を減らす必要があるということで、農業や道路・建物の建設に多くの問題を引き起こしています。政府はこれらの企業に対して窒素の多い土地での作業を許可していないためビジネスに影響があります。また、農家は土地の耕作を少なくし、家畜を減らす必要があり、問題となっています。特に農業者と建設業者は、政府に反対する様々なデモを起こしました。これが悪影響を及ぼし経済を悪化させる可能性があることが、もう一つの問題です。

KIO(オランダ)(Jan van Mier)